

2019年度ルール説明

2019年4月21日
平塚市テニス協会

1. テニスルール



内容

1. テニスルール
2. 2019年ルール変更点
3. こんな時あなたはどのようにしますか？
 - ルールを知っていれば自信を持ってプレーできます！
4. 団体戦での注意事項

JTAテニスルールブック2019

第1部 テニスルール

規則1～31、試合中に起こるケースの判断、セルフジャッジの方法 など

第2部 JTA公式トーナメント管理関連規則

公式大会、ベテラン大会の大会運営の規則

第3部 JTA公式トーナメント競技関連規則

大会の進行方法、メディカルルール、トイレットブレイク など

第4部 JTA公式トーナメント コードオブコンダクト

エントリー方法、服装、倫理違反などの規則

第5部 ランキング関連規則

JOPランキング、JOPベテランランキング

第6部 コートオフィシャルの手引き

大会役員（レフェリー、アンパイア）の役割

第7部 登録関連規則 第8部 JTA関連規則 第9部 参考

JTAテニスルールブック2019 訂正

訂正箇所

P56 試合で起こるQ&A

Q14) インプレー中、コート上にあるボールを蹴飛ばした場合

第2サービスからのインプレー中、第1サービスのフォルトのボールを誤って蹴飛ばした場合、チェアアンパイア(チェアアンパイアがつかない試合では相手プレイヤー)がプレーを妨害したと判断した場合、「レット」をコールすることができる。2回目以降は、そのたびに相手への故意による妨害となり、失点する。

赤字部分が誤って消去されてしまいました。追加してください。
青字部分は追加された部分。ITFの原文の訳を見直したもので、ルール上の変更はありません。

2. 2019年ルール変更点

本資料のなかの Pnn は【JTAテニスルールブック2019】のページ番号を示しています。
本資料では要約したり、一部のみの説明になっていますので、必ず【JTAテニスルールブック2019】をお手元に置いてご覧ください。

HTA 平塚市テニス協会が定めたルールです。

2019年ルール変更点

◆ トイレットブ레이크と着替え P144

試合のフォーマット	男女共通	
	シングルス	ダブルス
3セットマッチ	1試合1回	1試合ペアで2回
5セットマッチ	1試合2回	1試合ペアで2回

➢ 1セットマッチ、8ゲームプロセットの場合は大会毎に定めることとなった。

HTA

平塚市テニス協会主催大会では以下のように定めます。

1セットマッチ、8ゲームプロセットの試合の場合
深刻であるとRe/RUが判断した時は、当該選手のサービスゲームの前にトイレットブ레이크を1試合1回認めます。

◆ セルフジャッジの方法の一部変更(2018年度)の補足

1. セルフジャッジの方法 P61
- 4) ダブルスの場合のミスジャッジの即座の訂正(コレクション)のケースが補足された(次ページ以降で解説)

2018年ルール変更点(補足)

◆ セルフジャッジの方法の一部が変更された。

- 「アウト」「グッド」の判定
- コレクション(ミスジャッジの即座の訂正)・・・シングルス
- コレクション(ミスジャッジの即座の訂正)・・・ダブルス
- 判定をコールできるプレイヤーの変更
- 妨害が起きた時のレットをコールできる人

2018年に変更されましたが、ご理解されていない方が多くおられますので補足します。

セルフジャッジ 「アウト」「グッド」の判定

2018～

P61

1. セルフジャッジの方法

2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、**ボールとラインの間に空間が見えなかった時**、あるいはボールを見失って判定できなかった時は「グッド」である。

ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。

セルフジャッジ コレクション(ダブルス)

- ◆ ダブルスでは1人のプレーヤーが判定すれば成立するが、ペア間で判定が食い違った場合にはそのペアは失点する。

2018～

P61

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコールした直後に、コールした本人が「グッド」と訂正(コレクション)した場合、またはパートナーの訂正(コレクション)にコールした本人が同意した場合

- 1回目は「故意でない妨害」としてポイントレット
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット/エースの時はミスジャッジした選手の失点
- 2回目以降は「故意に妨害した」として失点

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコールしたが、パートナーの訂正(コレクション)に同意できなかった場合、または対戦相手から判定に抗議がなされた後に誤りを認めた場合

- そのペアは失点する。

P58

ただし、コールした側が1回目であっても失点と認めたら失点が有効となります。(ポイントのコンシード(Concede))

セルフジャッジ コレクション(シングルス)

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)した直後に、自分で「グッド」と訂正(コレクション)した場合はそのプレーヤーの失点

2018～

P62

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)した直後に、自分で「グッド」と訂正(コレクション)した場合は

- 1回目は「故意でない妨害」としてポイントレット
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット/エースの時はミスジャッジした選手の失点。
- 2回目以降は「故意に妨害した」として失点

ただし、本人が1回目であっても失点と認めたら失点が有効となります。(ポイントのコンシード(Concede))

P58

セルフジャッジ 判定のコール(1)

- ◆ ネットより自分側のコートについて判定する。
アウト、フォールト、グッド、ノットアップ、ファウルショット、タッチ、ネット(レシーバー) など

2018～

P62

- ◆ 各判定とコールできるプレーヤー(権利者)の一部変更
 - 「フォールト」「アウト」「グッド」・・・ネットより自分側
 - 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」・・・両方のプレーヤー
 - 「フットフォールト」・・・コート内のR・AR・RU *1)

(*1)R・AR・RU・・・レフェリー、アシスタントレフェリーまたはロービングアンパイア

セルフジャッジ 判定のコール(2)

- ◆ サービスの「ネット」はレシーバーがコールする。サーバーがコールしてしまったときはレシーバーがそれを認めなければ失点
- ◆ 「ノットアップ」はボールを打ったプレーヤー自身だけがコールできる。相手プレーヤーがコールしてしまったときは打ったプレーヤーが認めなければ失点
- ◆ 「タッチ」はネット、ラケットなどに触れたプレーヤーだけがコールできる。相手プレーヤーがコールしてしまったときはそのプレーヤーが認めなければ失点



2018~

P62

- ◆ サービスの「ネット」はレシーバー／サーバー双方がコールできる。
- ◆ 「ノットアップ」は打ったプレーヤー自身／相手プレーヤー双方がコールできる。
- ◆ 「タッチ」は触れたプレーヤー／相手プレーヤー双方がコールできる。

お互いにきちんと状況を判断し、スポーツマンシップに則り試合を進めてください。

お互いの判定が食い違い同意できない時は、R・AR・RUに裁定を求めてください。

3. こんな時あなたは どうしますか？

ルールを知っていれば
自信を持ってプレーできます！

セルフジャッジ 妨害に対するコール

様々な妨害に対して誰がコールできるか明確に示されました。

2018~

P61-62

1. セルフジャッジの方法 6)、7)、14)、16)

- ◆ コート外からの妨害による「レット」のコールは**両プレーヤー・チーム**ができる。
- ◆ 対戦相手による無意識の妨害(落とし物1回目を含む)は**妨害を受けたプレーヤー・チームのみ**「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
- ◆ 対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は**妨害を受けたプレーヤー・チーム**が「レット」をコールし、R・AR・RUに申し出て判断をあおぐ。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とはみなされない。

問 題	○/×
1 ウォームアップが済んだあとで試合前のトスを行っても良い。	
2 サーブのためのトスをラケットで受け止めてしまったらフォールトになる。	
3 セルフジャッジでアウトをすぐに訂正して入っていると認めてもポイントのやり直しはできない。	
4 試合中にトイレに行きたくないので、相手選手に断ってトイレに行った。	
5 試合中に気分が悪くなったので、リタイアした。	
6 ラリー中 錦織選手のポケットからボールが落ちた。 錦織選手はレットをコールしてプレーを止めた。	
7 ダブルスの試合で、ロブを上げたチームが、相手が打つ直前に「下がって！」と叫んだ。 打とうとしていた山本選手が驚いて打つのを止めた。 打たなかったので、山本選手は失点した。	
8 サービスの「ネット」はサーバーもコールできる。	
9 セルフジャッジの試合で、きわどい着地地点だったが、アウトと思ったのでアウトにした。	
10 ダブルスの試合で、ファイナルセット10Pマッチタイブレークの試合で、10Pマッチタイブレークとなった時に、デューサイド/アドサイドを変えても良い。	

問題1

質問①

ウォームアップが済んだあとで試合前のトスを行っても良い。

質問②

サーブのためのトスをラケットで受け止めてしまったらフォルトになる。

コイントス

P12

規則9 エンドとサービスの選択

試合の最初のゲームで、どちらのエンドを選ぶか、または、サーバーとレシーバーのどちらを選ぶかは、**ウォームアップ前にトスで決める**。トスの勝者は下記のどれか1つを選ぶことができる

- 試合の第1ゲームでサーバーになるかレシーバーになるかを選ぶ。このときトスの敗者はエンドを選ぶ。
- 試合の第1ゲームのエンドを選ぶ。このときトスの敗者はサーバーになるかレシーバーになるかを選ぶ。
- トスの敗者に、サーブ／レシーブの選択、エンド選択のどちらかを先に選ばせる。(オポネントチョイスと言います)

サービス・フォルト

P15

規則19 サービス・フォルト

下記の場合のサービスはフォルトになる。

- サーバーが規則16,17及び18に違反した時
- ボールを打とうとしたが打てなかった時
- サーブされたボールが地面に落ちる前に、パーマネント・フィクスチャ、シングルス・スティックまたはネットポストに触れた時
- サーブされたボールがサーバー自身またはサーバーのパートナーに直接当たるか、または着衣・持ち物にふれた時。

ケース1: サーブするボールを空中に放り投げたあと、サーバーが打つのを止めてボールをつかんだ。これはフォルトか？

(答) フォルトではない。**サーブをするのを止めたサーバーは、ボールを手でつかんでも、ラケットで止めても、地面に落としてもかまわない。**

質問③

セルフジャッジでアウトをすぐに訂正して入っていると認めてもポイントのやり直しはできない。

セルフジャッジ コレクション(ダブルス)

- ◆ ダブルスでは1人のプレーヤーが判定すれば成立するが、ペア間で判定が食い違った場合にはそのペアは失点する。

2018～

P61

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコールした直後に、コールした本人が「グッド」と訂正(コレクション)した場合、またはパートナーの訂正(コレクション)にコールした本人が同意した場合

- 1回目は「故意でない妨害」としてポイントレット
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット／エースの時はミスジャッジした選手の失点
- 2回目以降は「故意に妨害した」として失点

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコールしたが、パートナーの訂正(コレクション)に同意できなかった場合、または対戦相手から判定に抗議がなされた後に誤りを認めた場合

- そのペアは失点する。

P58

ただし、コールした側が1回目であっても失点と認めたら失点が有効となります。(ポイントのコンシード(Concede))

セルフジャッジ コレクション(シングルス)

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)した直後に、自分で「グッド」と訂正(コレクション)した場合はそのプレーヤーの失点

2018～

P62

- ◆ 「アウト」「フォールト」とコール(ミスジャッジ)した直後に、自分で「グッド」と訂正(コレクション)した場合は

- 1回目は「故意でない妨害」としてポイントレット
ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット／エースの時はミスジャッジした選手の失点。
- 2回目以降は「故意に妨害した」として失点

ただし、本人が1回目であっても失点と認めたら失点が有効となります。(ポイントのコンシード(Concede))

P58

質問④

試合中にトイレに行きたくなったので、相手選手に断ってトイレに行った。

◆ チェアアンパイアがつかない試合方法

P62

9) 次の場合はレフェリー又はロービングアンパイアに速やかに申し出る。

- ① 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
- ② 相手プレイヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服がある時
- ③ プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった時

平塚市テニス協会主催大会では以下のように定めます。

1セットマッチ、8ゲームプロセットの試合の場合
深刻であるとRe/RUが判断した時は、当該選手のサービスゲームの前にトイレットブレイクを1試合1回認めます。

質問⑤

試合中に気分が悪くなったので、リタイアした。

リタイアの対応

P65

P154

P190

◆ 選手はリタイアをR/RUに申し出る

R/RUはその理由が妥当な場合に認める

P62

- メディカルタイムアウトを取りたい時は、R/RUに申し出る。
- 怪我やケイレンでこれ以上試合を続けられない場合のリタイアしか想定していないため、他の理由によるリタイアについては明文化されていませんが、P190にあるようにどのような理由にしてもリタイアの最終判断はレフェリーが行います。
- シングルスで試合でリタイアした場合に、当日のダブルスに出場できるかどうかはレフェリーの判断が必要。

質問⑥

ラリー中 錦織選手のポケットからボールが落ちた。 錦織選手はレットをコールしてプレーを止めた。

持ち物を落としたとき

試合で起こるQ&A Q13)

P56

P61

- ◆ インプレー中にプレーヤーが持ち物(帽子、ボール、サングラスなど)を落としたときは
 - 落とした本人はレットをかけられない
 - 相手選手は妨害と感じたら1回目はレットをかけ、「今後落し物をしたら、その度に失点になります」と注意する
 - ただし、レットがコールされたときに、ボールの行方によってレットが取り消されポイントが成立し、妨害はなかったと判断される場合があります。
 - ・ 飛んでいたボールがネットを越えなかったまたはアウトのとき⇒打ったプレーヤーの失点
 - ・ 明らかなウィニングショット、エースのとき⇒打ったプレーヤーの得点
 - 2回目以降は故意による妨害と判断され失点する
- ◆ ラケットを落とすこと、シューズが脱げることは妨害に当たりません。

セルフジャッジ 妨害に対するコール

「かまえて！下がって！」と叫んだことを、対戦相手が妨害と判断したら、「レット」をコールして、R・AR・RUに申し出ます。

妨害と判定されたら失点となります。

2018～

P63

16) 対戦相手からの故意の妨害

対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は妨害を受けたプレーヤー・チームが「レット」をコールし、R・AR・RUに申し出て判断をおおぐ。ただし、妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とはみなされない。

質問⑦

ダブルスの試合で、ロブを上げたチームが、相手が打つ直前に「下がって！」と叫んだ。打とうとしていた山本選手が驚いて打つのを止めた。
打たなかったのに、山本選手は失点した。

質問⑧

サービスの「ネット」はサーバーもコールできる。

セルフジャッジ 判定のコール(1)

- ◆ ネットより自分側のコートについて判定する。
アウト、フォールト、グッド、ノットアップ、ファウルショット、タッチ、ネット(レシーバー) など

2018～



P62

- ◆ 各判定とコールできるプレーヤー(権利者)の一部変更
 - 「フォールト」「アウト」「グッド」・・・ネットより自分側
 - 「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」・・・両方のプレーヤー
 - 「フットフォールト」・・・コート内のR・AR・RU *1)

(*1)R・AR・RU・・・レフェリー、アシスタントレフェリーまたはロービングアンパイア

質問⑨

セルフジャッジの試合で、きわどい着地地点だったが、アウトと思ったのでアウトにした。

セルフジャッジ 判定のコール(2)

- ◆ サービスの「ネット」はレシーバーがコールする。サーバーがコールしてしまったときはレシーバーがそれを認めなければ失点
- ◆ 「ノットアップ」はボールを打ったプレーヤー自身だけがコールできる。相手プレーヤーがコールしてしまったときは打ったプレーヤーが認めなければ失点
- ◆ 「タッチ」はネット、ラケットなどに触れたプレーヤーだけがコールできる。相手プレーヤーがコールしてしまったときはそのプレーヤーが認めなければ失点

2018～



P62

- ◆ サービスの「ネット」はレシーバー／サーバー双方がコールできる。
- ◆ 「ノットアップ」は打ったプレーヤー自身／相手プレーヤー双方がコールできる。
- ◆ 「タッチ」は触れたプレーヤー／相手プレーヤー双方がコールできる。

お互いにきちんと状況を判断し、スポーツマンシップに則り試合を進めてください。

お互いの判定が食い違い同意できない時は、R・AR・RUに裁定を求めてください。

セルフジャッジ 「アウト」「グッド」の判定

2018～

P61

1. セルフジャッジの方法

:

2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、**ボールとラインの間に空間が見えなかった時**、あるいはボールを見失って判定できなかった時は「グッド」である。

ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えた時は「アウト」または「フォールト」である。

質問⑩

ダブルスの試合で、ファイナルセット10Pマッチタイブレークの試合で、10Pマッチタイブレークとなった時に、デューサイド／アドサイドを変えても良い。

4. 団体戦での注意事項

ルールを知っていれば
自信を持ってプレーできます！

レシーブの順序

P14

規則15 ダブルスでのレシーブの順序

セットの第1ゲームでレシーブするチームは、そのゲームの第1ポイントをどちらのプレーヤーがレシーブするか決める。同じように、相手チームは第2ゲームが始まる前に、そのゲームの第1ポイントをどちらのプレーヤーがレシーブするか決める。第1ポイントをレシーブしたプレーヤーのパートナーは第2ポイントのサービスをレシーブする。**この順番はそのゲームとセットが終わるまで続けられる。**

- 10Pマッチタイブレークはファイナルセットのため、その開始前に、レシーブの順序、サービスの順序を変えてよい。

応援

仲間を応援しよう！ ただし、以下に注意！ P58

- ◆ 試合中の選手にコート外から技術や戦略のアドバイス（コーチングと言います）をしてはいけません。
 - 「ナイスショット」「がんばれ」「ポイント」「先リード」「1本目」「もう一本」「ドンマイ」
 - × 「前に出る」「ロブ使え」「もっと振りぬけ」「足使って」「ゆっくり」「ストレートケア」「ロブケア」 etc
- ◆ 選手はコート外の誰とも会話をしたり、アイコンタクトなどをしてはいけません。
- ◆ 拍手は素晴らしいプレーに対してするものです。相手のエラーに対しては「暖かな沈黙」がマナーです。

- ◆ ベンチコーチは90秒のエンド交代時にコーチングできますが、ポイント間ではできません。
(第1ゲームの終了時、タイブレークのエンド交代ではできません)
- ◆ ベンチコーチはコート外の誰からもコーチングを受けてはいけません。
- ◆ ベンチコーチはエンド交代時にのみコートを出入りできます。
- ◆ ベンチコーチが「レット」「アウト」「フットフォールト」の判定をしたり、相手の判定に異議を直接申し出ることではできません。
(異議があるときは、R/RUIに申し出てください)
- ◆ ベンチコーチに悪質な違反があった場合には1回目、2回目は警告、3回目は退場となります。
(退場となると、代理のベンチコーチは認められません)
- ◆ 相手チームのプレーを妨害するような応援をしてはいけません。
悪質な応援を繰り返した場合は、応援するチームに対し、1回目は警告となり、2回目以降はその都度失点となります。



End